

2020年度（2020年8月1日～2021年7月31日）

事業報告書

アリスセンターの2020年度(2020.8～2021.7)は、「分断社会」の打破や「アドボカシー」の視点を重視し、コロナ禍の中、かながわの市民社会、NPOが必要としていることを把握し、事業実施型のNPOではできない課題提起型のNPOをめざし活動を行いました。

1 新型コロナ感染拡大に対する調査と提言の取組み

(1) 取組みの概要

2020年2月頃から新型コロナ感染拡大による様々な社会活動が自粛を余儀なくされ、2021年8月現在、新型コロナ感染は急拡大を続けています。分断社会・経済格差が顕在化し弱い立場にある人は、引き続き厳しい状況に直面しています。同時に、弱者を支えるNPOの活動自体も活動の停滞や休止に直面しています。このような厳しい状況に対して、引き続き緊急に社会全体で利己を超えてつながり、支援が求められています。緊急の支援と同時に、コロナウイルスによって顕在化した社会制度の不備を修正し再構築していく視点をもった取組みが必要と思います。

このような状況の中、アリスセンターの中間支援組織としての役割を踏まえ、対応指針を2020年4月に決めました。<http://alice-center.jp/wp/?p=785&preview=true> 「NPOの声や困っている方の声を少しずつでも、市民団体や市民の皆さんにお届けする。また、支援しているNPOや困っている方に役に立つ情報をお届けする。そのため、アリスセンターとして全国のNPO支援組織との連帯や自治体の取組みのチェックなどを進める。この厳しい状況は、政府の力だけではなく、市民社会の力も問われています。何をすべきか、それぞれが考え、話し、共に行動する。」

その方針に沿って、2019年度は、2020年5月に新型コロナウイルス緊急事態市民団体アンケートを行い、その結果(<http://alice-center.jp/wp/?p=811>)をもとに、県内のすべての自治体に対して、新型コロナウイルス感染症の影響によるNPOや要支援者の現状と課題の報告と政策提案を行いました。

(<http://alice-center.jp/wp/?p=827>)。

また、県内の自治体のNPO支援策の調査を実施しました。<http://alice-center.jp/>

[wp/?p=857](#)) 県内 27 自治体(県内 34 自治体)から回答がありました。その結果を取りまとめて、アンケート結果と同様に、今後の施策の参考にしてもらうため、県内すべての自治体に対して送付しました。

2020 年度は、政府の「緊急事態宣言」が解除され、一旦は感染拡大が収束した後も、引き続き感染者が発生し、市民生活や市民団体の活動に大きな制約があるなか、また、政府や民間による様々な支援策が実施されるなか、その効果の検証も含めて、今後の具体的な施策実施の必要性を検討するために、2020 年 11 月から 12 月にかけて「新型コロナウイルス緊急事態市民団体第2次アンケート」を実施し、報告書としてまとめました。(c75845f1e96da1a4af47e0f6d8eaa3112.pdf (alice-center.jp))

また第2次アンケートの結果を踏まえて神奈川県内自治体に 2020 年 12 月「with/after コロナの中での要支援者及び NPO への支援に関する提案」を送付しました。(a297e69ac1f95a0d66d8cc2b495b946b2.pdf (alice-center.jp))

(2)アンケート結果の概要

2020 年 5 月の調査では、感染防止に最も重点が置かれ、緊急の対策・対応に追われ、要支援者も NPO も振り回された状況が確認できた。

2020 年 11 月の調査は、要支援者は、徐々に NPO 等の相談を受けて、それをきっかけにサービス提供を受け、居場所の利用等を再開していた。NPO は、事業の実施にあたり、サービス提供の縮小、人数制限や予約制、テイクアウトやオンライン等の導入などを行っていました。しかし、完全には、新型コロナ前には戻れないので、新型コロナの長期化を踏まえ新しい生活様式に向けた取り組みが必要になってくると思います。

5 月の「第1次アンケート」と比較すると、11 月の「第2次アンケート」では、「活動が改善した」団体が約4割、「あまり改善していない」団体が約3割だった。あまり改善していない理由は、75%の団体が、「新型コロナの前のように事業・サービスが提供できない」を挙げている。多くの団体が、新型コロナ前のように事業の実施やサービスの提供ができなくなってきており、with/after コロナを踏まえた新しい活動形態が求められていることが伺えます。

団体の事業収入は、事業等の縮小に伴って、過半数が「減少」56%、「変わらない」33%、「増加」11%となっています。会員数は「変わらない」が88%、「増加」11%となっている。行政資金は、「変わらない」が55%、「増加」33%、「減少」11%となっている。半数以上の団体は変わらないが、「増加」している団体もある。困窮者支援の活動や相談業務などを行う団体は、新型コロナの影響による相談ニーズが増加し行政からの委託業務が増加しています。

寄付金は、「変わらない」66%、「増加」22%、「減少」11%、となっています。2/3 の団体は、寄付金は変わりませんが、反面、半数以上の団体は事業収入が減少して

いるので、団体の運営が厳しくなっています。

新型コロナ感染の長期化、緊急事態宣言による様々な社会経済活動が自粛を余儀なくされる状態が依然として続いています。この厳しい状況により、5月と比較してより弱いところ、弱者にしわ寄せが広がっています。生活困窮者は増加し、分断社会・経済格差が顕在化してきています。生活困窮者の相談は、従来にも増して多く、抱える課題は多岐にわたっています。生活困窮者に対する子ども食堂やフードバンク、相談活動などのNPOの活動が活発に行われている。

(3) 政策提案の概要

県内自治体に対して行った提案の概要です。生活困窮者の増加と社会経済システムの脆弱性が顕在化し、貧困・孤立など様々な地域課題が発生しています。with/after コロナに対応したNPO活動、要支援者の支援が必要となってきます。課題解決のためには、相互信頼に基づく頼り合える社会の構築が必要であり、きめ細かい対応を行うNPO活動の重要性が増加します。しかし、NPO自体も活動に制約が生じるなど新たな課題に直面しているので、適切なNPO活動や要支援者への支援をお願いします。支援施策として、要支援者4項目、支援団体8項目の政策提案を行った。

2 メルマガ「らびっとにゆうず&頼り合える社会づくり通信」の取組み

(1) 発行数、情報件数の概要

アリスセンターのメルマガ「らびっとにゆうず&頼り合える社会づくり通信」は、2020年度は定期8回、臨時4回の計12回(2019年度15回)を発行しました。定期と臨時を含めると月1回となりますが、定期は1.5月に1回のペースとなりました。2020年度は編集体制が整わず、2019年度と同様には発行できませんでした。

(参照:「2020年度らびっとにゆうず記事一覧」)

●情報件数は、総件数で616件(2019年度617件)。発行回数は減りましたが、2019年度総件数とほぼ、同じだった。

●「分断社会の現状」が166件(2019年度82件)。2020年度の件数は、2019年度の件数の約2倍だった。増加した要因は、分断社会の現状を広い視点で伝えようとした、またコロナ禍の中で分断社会の深まりで件数が伸びたのではないかと推測します。

●「地域での関係やつながりを創造(再生)する活動」は231件(2019年度317件)。2020年度の件数は、2019年度の件数の約0.7倍だった。創造(再生)する活動がコロナ禍などの対応やその影響であまり取り組まれなかったと推測します。

●「市場原理だけで形成されない新しい働き方」は8件(2019年度3件)。労働組合法が成立したことにより若干増加した。

●「募集・イベント情報」は211件(2019年度215件)。情報件数は2019年度とほぼ変わらなかった。フォーラムや学習会がコロナ禍によりほぼオンライン併用型となり、コロナ前の件数とほとんど変わらなかった。アート系の情報件数は減少しました。助成の情報の件数も、前年度と同様に高かった。

■ 2020年度 らびっとにゆうず 記事一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2020年度	2019年度	増減 比 2019年度 2020年度	備考
発行日	2020 8-14	9-1	10-1	11-7	12-7	12-30	2021 1-21	3-1	3-1	5-13	6-27	7-27	2020年度	2019年度	増減 比 2019年度 2020年度	備考
らびっとにゆうずVol.	281	282	283	284	285	臨時	286	287	287	288	289	臨時	集計	集計		
「頼り合える社会づくり通信」号数		no.18	no.19	no.20	no.21	調査報告 掲載	no.22	no.23	no.23 別冊	no.24	no.25					
1 分断社会の現状																
1) 貧困・格差		3	7	4	3		4	2		3	6		32	16	16	
2) 受給者間			6	3									9	4	5	
3) 世代間			2	1									3	1	2	
4) 地域間		1	1	1									3	1	2	
5) 雇用者間		1	8	8									17	5	12	
6) 男女(性差)		1	5	5				1		1	2		15	7	8	
7) 入居者間			1										1	1	0	
8) 国籍(移民・外国籍)		1	4	6	2		3	2		12	8		38	14	24	
9) 政治意識間			1	1	3	2		2	1		2		13	13	0	
10) 市民意識間																
11) 社会全般		3	9	3	3		3	5		3	6		35	20	15	
小計		11	44	34	10		12	11	0	20	24		166	82	84	
2 「頼り合える社会づくり通信」																
1) 地域全般・制度全般 (コロナ以外)		1	1		4	1	6	3		4	6		26	36	-10	
1) ①地域全般・制度全般 (コロナ関連)		7	6	8	7		7	8		8	7		58	55	3	
2) まちづくり		2	2	6			3	7		2	2		24	34	-10	
3) 居場所づくりの活動		1	1	2	3		4	2		2	4		19	29	-10	
4) 高齢者福祉・介護の活動				2	3		1	2	1		2		11	9	2	
5) 障害者福祉		2	1	1							1		5	9	-4	
6) 多世代参加型子育て活動													0	4	-4	
7) 外国籍市民との共生活動					2		1	1					4	14	-10	
8) アート活動							1						1	8	-7	
9) 子ども・若者・女性の支援				5			3	2		4			14	29	-15	
10) 様々なネットワークの活動							2			1	1		4	10	-6	
11) 市民基金の活動		2		1	2		2	1			1		9	13	-4	
12) 人権・平和の活動		2	2	4	2		2	2		1	4	1	20	29	-9	
13) 住宅支援の活動													0	3	-3	
14) 環境・エネルギーの活動		2	3	4	6		1	3		1	3		23	22	1	
15) マイノリティ支援の活動		3	1	5	1			1		2			13	13	0	
小計		22	17	38	30		33	32	1	21	35		231	317	-86	
3 新しい働き方																
小計		1	1	1	3		2	0					8	3	5	
4 募集・イベント情報																
1) さまざまな催し物の情報		3	1	1	7		4	7			2		25	28	-3	
2) 募集の情報(セミナー・学習会)		1	7	6	6		8	4			9		41	40	1	
募集の情報(奨学金・署名・募金・ スタッフ・派遣者等)		6	1	7	8		9	4		1	14		50	36	14	
3) 助成金の情報													105	109	-4	
3) ①助成金の情報(コロナ対応)		4	4	3	4		5	4		4	12		40			
4) その他の助成金情報	2	6	2	14	10		8	5		4	6		55			
小計		20	15	31	35		34	24	0	9	43		211	215	-4	
総計		54	77	104	78		81	67	1	50	102		616	617	-1	

(2) 配信情報の概要

2020年度も神奈川県内や全国規模で新型コロナウイルスの影響下での市民活動関係情報を重点的に配信しました。

通年を通じて、分断社会や行政施策の現状、頼り合える社会づくりにつながる活動に取り組んでいる団体をリストアップして定期的に情報収集や取材を行い情報発信しました。「分断社会の現状」、「地域での関係やつながりを創造(再生)する活動」、「市場経済の原理だけでは形成されない新しい働き方」の3つ柱に沿って配信した情報を振り返り分析します。

1 「分断社会の現状」で伝えられた情報

① 貧困・格差 32件

生活保護の現状と課題、生活保護制度運用の是正の要望、コロナ禍に対する県内のNPO等の活動の情報を配信した。特に県内のフードバンクかながわを含むフードバンクの活動状況は、定期的に配信した。

② 受給者間 9件

教育における格差、コロナによるいじめ、特別支援学級の過密問題など教育の格差の情報を配信した。

③ 世代間(若者・高齢者)3件

大学閉鎖とGO TO 援策に対する若者の不満の情報を配信した。

④ 地域間(都市と地方)3件

消えゆきつつある福島県浪江町の情報を配信した。

⑤ 雇用者間(正規・非正規)17件

コロナ禍での高い失業率やコロナ給付金関係の訴訟・ストライキの情報、不安定な雇用制度の情報を配信した。

⑥ 男女(ジェンダー)15件

ジェンダーギャップ解消のため、県内NPOからの労働委員会委員の女性委員の拡大の要望や選択的夫婦別姓に対する議会での意見書の可決をめざした動きなどの情報を配信した。

⑦ 入居者間(公営住宅等)1件

空き家解体、費用支援の拡充について言説を配信した。

⑧ 国籍(国民・移民・外国籍)38件

川崎ヘイト禁止条例を巡る動き、相模原市でのイト禁止条例制定を巡る動き、その動きに反応する神奈川県内及び全国の動き、入管法改正を巡る動きなどの情報を配信した。

⑨ 政治意識及び⑩ 市民意識 13件

横浜市の IR(統合型リゾート)の誘致を巡る情報は、毎回、情報を配信した。8月22日の選挙で IR(統合型リゾート)の誘致は行われまいだろうが、その後の進展についてもフォローしていきたい。右翼団体の上映中止要求に対する横浜シネマリンの声明も配信した。

①その他社会全般 35 件

国内、国外の多様な課題を市民の視点で選択し配信した。虐待・DV、自殺問題、コロナ禍の中傷・マスク警察問題、石綿被害者救済、福島原発事故の避難者の訴訟、復興五輪の矛盾、横須賀フェリー航路新設問題、広島の前爆の問題、関東大震災の朝鮮人虐殺に対する慰霊祭の問題、ミャンマーの国軍クーデター問題など。

2 「地域での関係やつながりを創造(再生)する活動」で配信された情報

①「1 地域全般・制度全般」(84 件、内コロナ関係は 58 件)では、現在、社会が抱える課題や制度の改善を考えるフォーラム・講演会、本や機関誌に関する情報を配信した。地方自治制度の関係で、都構想をめぐる大阪府・市、特別自治市をめぐる横浜市の動きをアリス編集部の意見も含めて配信した。

コロナ禍の NPO 等の活動の状況、国や民間の支援情報を毎回、情報を更新して配信した。

②「2 まちづくり」(24 件)では、コロナ禍のなか活動する NPO、行政、町内会、学生の取り組みを配信した。

10 年目を迎えた福島復興を巡るフォーラムやシンポジウムなどの取り組みを配信した。昨年度多かったまちづくりのつながりや担い手などをテーマとするシンポジウムやフォーラムの動きは弱く配信はなかった。

③「3 居場所づくりの活動」(19 件)は、県内、全国のフードバンクの動きを配信した。フードバンクかながわ、全国こども食堂支援センターむすびえの動きを定期的に情報発信した。

④「4 高齢者福祉・介護の活動」(11 件)は、埼玉県のケアラー条例(2020 年 3 月成立)が成立し、ヤングケアラーを巡る国や埼玉県、北海道粟山町、さいたま NPO センターなどの NPO の動きを情報配信した。

⑤「5 障がい者福祉の活動」(5 件)は、「医療的ケア児支援法」「青森県手話言語条例」成立を巡る情報を発信した。神奈川県としては、神奈川県しか手話言語条例はなく、県内の自治体ではどこも制定されていない。今後の課題であると思う。

⑥「6 多世代参加型子育て活動」(0 件)は、情報がなく配信しなかった。情報収集の方法を検討したい。

⑦「7 外国籍市民との共生の活動」(4 件)は、外国籍市民との共生・多文化共生に関するフォーラムや講座に関する情報を発信した。コロナ禍の中、あまりイベント・フォ

ーラムが行われなかった。難民問題に関する情報は配信できなかった。情報収集の方法を検討したい

⑧「8 アート活動」(1件)は、コロナ禍の中で、活動が制限されていて情報が少なかった。その中で工夫をしながら活動を続けている活動の情報を配信した。

⑨「9 子ども・若者・女性の支援」(14件)は、神奈川県内、全国の子どもの生きる環境づくり支援に関する情報を配信した。若者の支援では、奨学金に関する情報を配信した。女性(ジェンダー)では、第5次男女共同参画基本計画や女性支援のフォーラムの情報を配信した。川崎市子どもゆめパーク・たまりまの動き定期的に情報配信した。婚外子差別撤廃に向けた電話相談情報を継続的に配信した。

⑩「10 様々なネットワークの活動」(4件)は、コロナ禍を乗り越えて、ボランティア活動の可能性とつながる力を探るフォーラムの情報を配信した。昨年度は様々なネットワーク活動を行っている県内、県外の市民活動の支援センターの活動が活発だったが、今年度は減少した。

⑪「11 市民基金・寄付の活動」(9件)は、神奈川県内の(公財)かながわ生き生き市民基金及び(公財)かわさき市民しきん、東京都内のソーシャルジャスティス基金、高木仁三郎市民科学基金動きを中心に情報を配信した。

⑫「12 人権・平和の活動」(20件)は、人権は、神奈川県内、国内、国外の人権を巡る動きを情報配信した。具体的には、神奈川県が組織再編に伴い「人権」と名のつく部署の廃止に対する申し入れ、旧SEALSメンバーに対する中傷による損害賠償の判決、ミャンマー国軍クーデター問題など。平和の活動では、コロナ禍の中、非核市民宣言運動・ヨコスカの月例デモの状況や神奈川県基地関係市連絡協議会の横須賀市の脱退問題の動きを定期的に把握し情報発信した。

⑬「13 住宅支援の活動」(0件)は、情報がなく配信できなかった。情報収集の方法を検討したい。

⑭「14 環境・エネルギーの活動」(23件)は、横須賀石炭火力発電所の建設中止を求める訴訟の動き、山口県田の浦で原子力発電所の新設の動きを定期的に把握し情報配信した。

廃棄物について、県内、全国の動きを情報配信した。福島県原発事故を巡る情報を配信した。

⑮「15 マイノリティ支援の活動(LGBT等)」(13件)は、性的少数者であるLGBTの情報を中心に配信した。2020年度までに、県内8自治体(横浜市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、小田原市、相模原市、川崎市、葉山町)が、パートナーシップ宣言制度を導入している。これまでの導入情報とあわせて2021年度から新たに導入した大和市、大井町、南足柄市の情報を配信した。パートナーシップ宣誓制度に関する言説やフォーラムなどの動きを配信した。

3 「市場経済の原理だけでは形成されない新しい働き方」で配信された情報(8件)「新しい働き方」は、労働者協同組合法(12月4日可決・成立)を巡る動き、ワーカーズコレクティブの活動の情報を配信した。重要な課題だが情報が少なく十分な配信でできなかった。情報収集の方法を検討したい。

3 市民政策づくりのネットワークについて

現場で実際に支援を行っている団体は、緊急的、即時的に短期的に対応していく必要があり、中期的、長期的な政策を育てることが難しい状況にあります。中間支援組織であるアリスセンターの役割として、地域社会の活動を市民政策として高めていかなければいけないと考えています。その役割を果たすためには、現在、神奈川県内の中間支援組織同士の連携は弱く、その連携を強めていく必要があります。

今年度は、全国の中間支援組織「新型コロナウイルス NPO 支援組織社会連帯(CIS)」、「日本 NPO センター」、「シーズ」、県内では、「ソーシャルコーディネートかながわ」「市民セクターよこはま」、「かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク」等と情報交換を行いました。

具体的な活動として以下のことを行いました。

①第2次アンケート調査の事前、事後に「ソーシャルコーディネートかながわ」「市民セクターよこはま」等と意見交換を行いました。今後、中間支援組織が共同した活動を検討していくことに繋がっています。

2020年度実施した調査・提言について、神奈川県庁総合政策課からヒアリングを受けました。(内海理事長、鈴木理事対応) 今後、神奈川県としてNPOの実態を踏まえた連携策を考えるため調査を実施するので参考にしたいとのことだったので、積極的に協力しました。

②ミャンマー国軍によるクーデターに対して、日本から市民、NPO/NGOの立場で何かできないかと検討し、メルマガでの情報発信だけでなく、WE21 ジャパン、地球の木、アリスセンターの3者で連携して緊急学習会を8月に開催することになり、そのため準備を行いました。なお、緊急学習会は8月7日に実施しましたが、緊急な呼びかけでしたが、45名の方が参加しました。このような連携を通じた取組みの効果が確認できました。

③第35回自治体学会川崎大会の地元企画分科会(8/21)にむけて、アリスセンターが2020年に実施した調査・提言の報告とコロナ禍におけるNPO/市民団体の活動について内海理事長がパネリストとして参加するため、意見交換と準備を行いました。なお、当日の分科会では、高齢化、人口減少が進む郊外コミュニティの課題や再生策などについて意見交換される予定です。

4 会員のアリスセンター活動への参加と理事間の連携の促進について

一昨年度、実施した会員アンケートで、会員のアリスセンターへの活動の参加について伺ったところ、参加について肯定的な回答も見られました。事業の実施にあたっては、顔の見える関係を活用して、参加・協力についてお声がけ、ご相談していきたいと考えていました。しかし、残念ながら、新型コロナ感染拡大で活動の自粛も影響し、参加、連携はほとんどできませんでした。2021年度は、負担のあまりかからない方法で参加、連携を考えていきたいと思えます。

理事が多様なメンバーであることを活用して、理事間の協力、連携関係をさらに強め、大きな資金を必要としない範囲での事業を実施していくことを想定しました。今回の新型コロナウイルス感染拡大に対する取組みや中間支援組織との連携にあたっては、理事の経験や知見を活用することができました。

5 運営報告

総会・理事会・理事懇談会の開催記録

1. 総会

日時:2020年9月27日(日) 15:00から

会場:横浜ワールドポーターズ6F NPO スクエア会議スペース AB

議事

第1号議案 2019年度(2019年8月1日～2020年7月31日)事業報告書承認

第2号議案 2019年度(2019年8月1日～2020年7月31日)決算承認

第3号議案 2020年度(2020年8月1日～2021年7月31日)事業計画書承認

第4号議案 2020年度(2020年8月1日～2021年7月31日)予算承認

2. 理事会及び理事懇談会 理事会13回、理事懇談会1回の計14回実施した。

開催日	主な議題
第1回理事会 日時 2020年8月10日(月)10～12 場所:ZOOMによるWeb会議 出席者:内海、菅原、鈴木、川崎、吉田、岡田、 嶋田(監事) 鈴木智子(監事)	1.総会開催日程 2.総会議案書案の検討 3.横領事件について 4 総会までのスケジュール
第2回理事会 日時:2020年8月30日(日)16:00～18:00	1 業務上横領事件報告書の作成 2総会準備

<p>場所:ZOOMによるWeb会議 出席者:内海、菅原 川崎、吉田、岡田、鈴木、鈴木監事、嶋田監事</p>	<p>3横浜市市民公益活動助成金の活用 42アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第3回理事会 日時 2020年9月27日(日)17:00 場所 横浜ワールドポーターズ6F NPO スクエア会議スペース AB 出席者 内海、吉田、岡田、川崎(WEB参加)、菅原、鈴木</p>	<p>1 理事長及び副理事長の選定について</p>
<p>第4回理事会 日時 2020年10月3日(水)17:30~19:00 場所 ZOOMによるWeb会議 出席者 内海、吉田、嶋田、川崎、菅原、鈴木岡田、鈴木監事</p>	<p>1 2020年度総会後の対応 2 アンケート(案)の検討について 3 みんかなとの連携 4 らびっとにゆうずの発行 5 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第5回理事会 日時 2020年11月3日(火)15時~17時 場所 ZOOMによるWeb会議 出席者 内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、嶋田監事、鈴木監事</p>	<p>1 2020年度総会後の対応 2 アンケート(案)の検討について 3 らびっとにゆうずの発行 4 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第6回理事会 日時 2020年11月8日(火)17時 場所 ZOOMによるWeb会議 出席者 内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、嶋田監事、鈴木監事</p>	<p>1 アンケート(案)の検討について 2 らびっとにゆうずの発行 3 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第7回理事会 日時:2020年11月29日(日)17:00~ 場所:ZOOMによるWeb会議 出席者:内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、嶋田監事</p>	<p>1 アンケート(案)の検討について 2 らびっとにゆうずの発行 3 アリスセンターの運営・管理</p>

欠席:鈴木(智子)監事	
<p>第1回理事懇談会</p> <p>日時:2020年12月13日(水)16:00~</p> <p>場所:ZOOMによるWeb会議</p> <p>出席者:内海、岡田、鈴木、吉田、嶋田監事</p>	<p>1 アンケートの取りまとめ、提言作成</p>
<p>第8回理事会</p> <p>日時 2021年1月16日(日)10時~12時</p> <p>場所 コロナウイルスの影響でZOOM開催</p> <p>出席者 内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、嶋田</p> <p>監事 鈴木監事</p> <p>欠席 吉田</p>	<p>1 横浜市市民公益活動助成金の報告</p> <p>2 らびっとにゆうずの編集・配信</p> <p>3 アリスセンターの取組み</p> <p>4 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第9回理事会</p> <p>日時:2021年2月21日(水)16:30~18:30</p> <p>場所:コロナウイルスの影響でZOOM開催</p> <p>出席者:内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、嶋田監事</p> <p>監事 鈴木(智子)監事</p> <p>欠席:吉田</p>	<p>1 横浜市市民公益活動助成金の報告</p> <p>2 らびっとにゆうずの編集・配信</p> <p>3 アリスセンターの取組み</p> <p>4 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第10回理事会</p> <p>日時:2021年4月11日(日)17:00~18:30</p> <p>場所:コロナウイルスの影響でZOOM開催</p> <p>出席者:内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、嶋田監事、鈴木(智子)監事</p> <p>欠席:吉田</p>	<p>1 らびっとにゆうずの発行について</p> <p>2 コロナウイルスへのアリスセンターの取組み</p> <p>3 川崎自治体学会の取組み</p> <p>4 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第11回理事会</p> <p>日時:2021年5月23日(日)16:00~17:30</p> <p>場所:コロナウイルスの影響でZOOM開催</p> <p>出席者:内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、嶋田監事、鈴木(智子)監事</p> <p>欠席:吉田</p>	<p>1 らびっとにゆうずの発行について</p> <p>2 コロナウイルスへのアリスセンターの取組み</p> <p>3 川崎自治体学会の取組み</p> <p>4 アリスセンターの運営・管理</p>
<p>第12回理事懇談会</p> <p>日時:2021年6月26日(土)16:00~18:45</p> <p>場所:コロナウイルスの影響でZOOM開催</p>	<p>1 らびっとにゆうずの発行について</p> <p>2 コロナウイルスへのアリスセンターの取組み</p> <p>3 川崎自治体学会の取組み</p>

出席者:内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、 嶋田 監事、鈴木(智子) 監事 欠席: 吉田	4 ミャンマー問題の取り組み 5 2021 年度総会開催について 6 アリスセンターの運営・管理
第13回理事会 日時 2021 年 7 月 31 日(木)16 時~18 時 場所 コロナウイルスの影響で ZOOM 開催 出席者 内海、岡田、川崎、菅原、鈴木、吉田、 嶋田 監事、鈴木 監事 欠席:吉田	1 らびっとにゆうずの発行について 2 みんななどの情報交換会について 3 川崎自治体学会の取り組み 4 ミャンマー問題の取り組み 5 2021 年度総会開催について 6 アリスセンターの運営・管理

3. 会員数について(2021年7月31日現在) ※ ()は昨年度の会員数

●個人会員

・正会員19名(21名)※準会員13名(15名)

●団体

・正会員6団体(7団体)※準会員2団体(3団体)